

# 令和元年度実施報告書

## I 研究開発の概要

### 1 研究開発構想名

日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーの育成

研究開発1「課題研究」― G L探究 ―
研究開発2「教育課程の編成」― グローバルラーニング（G L）―
研究開発3「国内グローバル研修」― 英語宿泊研修 ―
研究開発4「海外グローバル研修」
研究開発5「大学との連携」
研究開発6「企業・国際機関等との連携」
課題研究以外の研究開発1「教育課程の編成（外国語）」
課題研究以外の研究開発2「英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成」
課題研究以外の研究開発3「地域や同窓会との連携」

### 2 期待する生徒の将来像

グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や様々な国際舞台で活躍できる人材となり、人類の幸福に寄与するようなグローバル・リーダー

### 3 身に付けさせたい能力等

- (1) 日本の歴史・伝統・文化を理解する力
- (2) 思考力・判断力・表現力・情報活用能力
- (3) グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心
- (4) コミュニケーション能力
- (5) 日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しより良き未来を指向する力
- (6) 課題解決能力
- (7) 創造的提案を的確に発信する力
- (8) 英語力

### 4 生徒の現状（課題）

- (1) グローバルな視点での見方や考え方・異文化理解が十分とは言えない。
- (2) 日本の歴史・伝統・文化を発信することに課題がある。
- (3) 海外で自分の考えを発表したりディスカッションをしたりする機会がない。
- (4) 海外等で使える英語力が十分とは言えない。

## 5 仮説及び検証方法等

### (1) 仮説1 (身に付けさせたい能力等 (1) ~ (4))

「生徒の現状 (課題) (1) (2) (4)」の克服を図り、主に「身に付けさせたい能力等 (1) ~ (4)」を身に付けさせる。

#### ア【仮説1】

教育課程に、グローバル・リーダー育成を目的とした教科を設定し、グローバルな視点からものごとを捉える学習内容にするとともに、日本の歴史・伝統・文化及びグローバルな課題に係る授業、調査活動、体験活動、交流活動、発表活動等を取り入れれば、日本の歴史・伝統・文化に対する理解が深まり、グローバルな社会課題に対する関心・意欲、探究心が高まり、思考力・判断力・表現力・情報活用能力等が向上し、コミュニケーション能力が身に付くのではないかと期待される。

#### イ【具体的な実施内容及び検証方法の概要】

「研究開発2・3・4・5・6」及び「課題研究以外の研究開発1」において行う。

##### (ア) 実施内容

- a 教育課程に、グローバル・リーダー育成を目的とした学校設定教科「グローバルラーニング (G L)」を設定し、既存の教科「地理・歴史」、「公民」、「外国語」を再編する。
- b 学校設定教科「グローバルラーニング」の中に、生徒の課題について、大学や企業、関係機関等と連携し、調査活動、体験活動、交流活動、発表活動等が週時程外で実施できる「G Lアクティブ」を設定する。

##### (イ) 検証方法

- a 生徒、保護者、教員によるアンケート
- b 大学進学実績 (平成30年度以降実施)
- c 課題研究及びプレゼンテーション等の成果からの分析

### (2) 仮説2 (身に付けさせたい能力等 (5))

生徒の現状 (課題) (1) (3) の克服を図り、主に「身に付けさせたい能力等 (5)」を身に付けさせる。

#### ア【仮説2】

海外研修の機会を設け、現地の高校又は大学と連携を図り、自分の考えを発表したりディスカッションをしたりする機会や交流活動を設けるとともに、現地での調査活動、体験活動を通して日本との比較を行うことでグローバルな課題の解決策を探究させれば、異文化を理解し、より良き未来を指向することができるのではないかと期待される。

#### イ【具体的な実施内容及び検証方法の概要】

「研究開発4」において行う。

##### (ア) 実施内容

オランダ、イギリス、ドイツ、シンガポール、オーストラリアでの海外研修を実施する。

##### (イ) 検証方法

- a 生徒、保護者、教員によるアンケート
- b 生徒の報告書の分析

### (3) 仮説3 (身に付けさせたい能力等 (6) ~ (8))

生徒の現状 (課題) (1) (2) (4) の克服を図り、主に身に付けさせたい能力等 (6) ~ (8) を身に付けさせる。

### ア【仮説3】

「G Lアクティブ」で得た情報を整理し、日本の歴史・伝統・文化を踏まえてグローバルな社会課題について研究(国際間での文化や社会の対立を排除し、その融和の実現を図る探究)を行い、国際社会に発信可能な英語での報告を行わせれば、英語力の向上、課題解決方法を考え創造的提案を行う発信力が高まり、課題を解決する能力と態度が身に付くのではないか。

### イ【具体的な実施内容及び検証方法の概要】

「研究開発1」及び「課題研究以外の研究開発2・3」において行う。

#### (ア) 実施内容

総合的な学習(探究)の時間を「G L探究」とし、1年次に「G Lアクティブ」等で得た情報を整理し、グローバルな社会課題から研究課題を定めさせ、2年次から日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、グローバルな社会課題の解決に向けた研究を行い、英語によるプレゼンテーションを実施するとともに論文を作成させる。

#### (イ) 検証方法

- a 生徒、教員によるアンケート
- b 課題研究の校内外での発表の件数や入賞の件数
- c 進路希望や進路意識の変容の分析
- d 留学生等の外部からの評価
- e 英語検定等の達成レベル
- f 海外研修に参加した生徒の自己評価(英語について)

## 6 令和元年度の生徒の到達目標

### 第3学年生徒

- ① グローバルな社会課題について、日本の歴史・伝統・文化を踏まえて論理的に考察し、結論に結びつけることができる。
- ② 取り上げた研究課題の解決に向け、現実的で創造的な提案ができる。
- ③ 研究内容を適切に論文にまとめることができる。
- ④ グローバル社会における自己の在り方について考えを深めることができる。

### 第2学年生徒

- ① 取り上げた研究課題に対して適切に調査を行うことができる。
- ② 日本の歴史、伝統、文化を踏まえて取り上げた研究課題の解決策を考えることができる。
- ③ 日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しより良き未来を考えることができる。
- ④ 導き出した解決策を具体的に示すことができる。
- ⑤ 自分の考えを論理的かつ的確に発信することができる。

### 第1学年生徒

- ① 全員が海外に自信をもって発信できる、課題研究テーマに関する日本の歴史、伝統、文化を語れるようにする。
- ② 研究したいグローバル社会における課題を見つける。
- ③ なるべく多くの生徒が英語でプレゼンテーションができるようにする。
- ④ 課題研究の進め方を理解する。

## 7 研究体制

### (1) S G H推進委員会（16名）

具体的な方針，運営について検討する組織としてS G H推進委員会を編成した。委員の構成は次のとおりである。

委員長 教頭（1名）

副委員長 教頭（1名），S G H主担当（1名），国際交流部長（1名）

委員（9名） 探究学習部長，地理歴史・公民科主任，英語科主任，学年主任（3名），各学年S G H担当（3名），英語科職員（1名），教務主任，事務主幹

### (2) S G H実務担当チーム

S G Hに係る具体的な企画・運営に係る素案作成及び運営に当たり，研究の中核を担う組織として編成した。委員の構成は次のとおりである。

教頭（S G H担当），S G H主任，国際交流部員（5名）

### (3) S G Hサポートチーム

S G H実務担当を補佐し，G L探究等の運営に携わった。

第1学年副担任5名，第2学年2名

### (5) 研究開発ごとの担当

研究開発		主担当	担当職員
研究開発1 「課題研究」	計画・運営	高柳 良訓	S G H実務担当，S G H推進委員会
	課題研究指導	高柳 良訓	当該学年全員
	課題研究助言	高柳 良訓	全職員（地歴・公民を中核とする。）
	プレゼン指導	戸村 玲子	G Lコミュニケーション英語担当
研究開発2 「教育課程」	学校設定教科 「グローバルラーニング」	関 研一	地歴・公民担当
	G Lアクティブ	高柳 良訓	全職員（地歴・公民を中核とする。）
研究開発3「国内グローバル研修」		尾竹 陽子	外国語（英語）担当・学年職員
研究開発4「海外研修」		戸村 玲子	国際交流部・外国語（英語）担当等
研究開発5「大学との連携」		高柳 良訓	S G H実務担当・進路指導部・当該学年職員
研究開発6「企業・国際機関等との連携」		戸村 玲子	全職員（S G H実務担当を中核とする。）
課題研究以外の研究開発1 「教育課程」		羽計 仁子	G Lコミュニケーション英語担当
課題研究以外 の研究開発2	英検等に対する 取組	井守 雄一	外国語（英語）担当
	海外からの留 学生等との交流	戸村 玲子	国際交流部・当該学年職員
課題研究以外の研究開発3		入江 順一	国際交流部・鹿山会関係職員・進路指導部

## 8 主な連携とその内容

連携先	期日	連携内容
千葉大学	令和元年 7月9日（火）	〔連携組織〕千葉大学環境ISO学生委員会 GL探究で環境問題に関するテーマを扱う2グループの代表が「千葉大学サステナビリティレポート2019」の意見交換会に参加。
	令和元年 9月17日（火）	〔連携組織〕千葉大学環境ISO学生委員会 2年「GL探究」での助言者として、当団体の学生8名が本校に来校。2時間にわたり2年7クラスで行われた小さな発表会に参加し活動。
	令和元年 9月17日（火）	〔連携学部〕国際教養学部 2年「GL探究」において、ガイタニディス・ヤニス助教に生徒の活動を参観いただき、助言・指導をいただいた。
	令和2年 1月28日（火）	〔連携学部〕国際教養学部 「GL探究」において、小林聡子准教授に生徒の発表を参観いただき、助言・指導をいただいた。
	令和2年 3月19日（木）	〔連携学部〕高大連携室 足立欣一特任教授に課題研究発表会を参観いただき、助言・指導をいただく予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発表会が中止となった。
東京大学	令和元年 9月3日（火）	〔連携学部〕大学院総合文化研究科・教養学部 「GL探究」において、阿古智子准教授に生徒の活動を参観いただき、助言・指導をいただいた。
	令和元年 10月28日（月）	〔連携学部〕大学院総合文化研究科・教養学部 「GLアクティブ」において、阿古智子准教授の研究室を訪問するとともに、学生から生徒の課題研究について指導・助言をいただいた。
東京外国語大学	令和元年 10月28日（月）	大学院総合国際学研究院橋本雄一准教授の模擬授業を受講
	令和2年 2月5日（水）	本校との間に高大連携協定締結
筑波大学	令和元年 10月28日（月）	筑波大学人間系藤田晃之教授の模擬授業を受講
国立歴史民俗博物館	令和元年 8月6日（火）	国立歴史民俗博物館、福岡万里子准教授から、近世の対外関係（長崎を通じたオランダ・中国との関係）に関する説明、及び幕末開国期を含めた近世展示室の解説をしていただく。
	令和元年 8月23日（金）	国立歴史民俗博物館、田中大貴准教授から、中世を中心に、権力者から庶民までの生活・文化の解説をしていただく。

国際協力機構 (JICA)	令和元年 11月15日(金)	JICA海外ボランティア経験者による「GL探究」の講演会を実施。テーマ「異文化理解と国際協力」
DIRECT FORCE	令和元年 11月15日(金)	DIRECTFORCE授業支援の会による「GL探究」の講演会を実施。テーマ「グローバル化社会への対応、皆さんはこれから何を大切にすべきか」
佐倉国際交流 基金	令和元年 10月20日(日)	[GL探究で協力] ムスリムの食文化(ハラールラーメン)を研究する2年生チームが、佐倉国際交流基金を通じて集まっていた外国人(ムスリム5名)に食事を提供し文化交流。
	令和元年 11月17日(日)	[GL探究で協力] 佐倉国際交流基金が主催する「日本語講座のつどい」に本校1学年生徒がボランティアとして参加。運営に協力するとともに、多国籍の方々と文化交流。
東京ジャーミ ィ・トルコ文化 センター	令和元年 8月1日・21日	東京ジャーミィ・トルコ文化センターを訪問し、職員の下山茂氏から説明を受け、見学を行った。
クレアシンガ ポール事務所	令和元年 9月19日(木)	海外研修において、クレアシンガポール事務所を訪問し、職員から課題研究の指導・助言を受けた。
セント・ジョセ フ・インスティ テューション	令和元年 9月20日(金)	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行った。
デュッセルドル フ市	令和2年 3月16日(月)	デュッセルドルフでのフィールドワーク及び現地校との連携等について支援を受ける予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。
ツェツィリア ンギムナジウ ム	令和2年 3月18日(水)	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。
在デュッセル ドルフ日本総 領事館	令和2年 3月16日(月)	海外研修において訪問し、課題研究の指導・助言を受ける予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。
ジャパンハウ ス ロンドン	令和2年 3月24日(火)	海外研修において訪問し、課題研究の指導・助言を受ける予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。
ホリポートカ レッジ	令和2年 3月25日(水)	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。
ナンボー・クリ スチャンカレ ッジ	令和元年 7月26日(金)・ 30日(火)	海外研修の交流校として、課題研究の発表及びディスカッションを行った。

シーボルトハウス	令和元年 11月8日(金)	シーボルトハウス フォロー邦子 氏との連携により、オランダ・ライデン大学や国立歴史民族学博物館との連携を構築し、生徒がオランダ派遣の研修の一環として訪問し、説明を受け調査を行った。
佐倉市役所	令和元年 7月12日(金)	「佐倉市新図書館建設に関するタウンミーティング」に参加。
	令和元年 10月6日(日)	佐倉市が主催する「千葉起業家交流会」へ生徒参加。
佐倉市立 佐倉小学校	令和元年 9月及び10月	課題研究に係る検証を、児童対象に特別授業として実施。対象6年生約120名。 本年度のテーマは「食品ロスと給食」
NIPPONIA SAWARA	令和元年 8月23日(金)	香取市佐原地区で宿泊業を営むNIPPONIA SAWARA を訪問し、地域活性化への取組について話を伺う。
株式会社 千葉醤油	令和元年 8月23日(金)	香取市で長く醸造業を営む千葉醤油を訪問し、醤油の生産現場を間近で見学及び解説を聴く。

## 9 令和元年度SGH事業の実施状況

### (1)「GL探究」

2・3年「総合的な学習の時間」1時間      1年「総合的な探究の時間」2時間

月 日	学年	内容
4月10日(水)	2	「課題研究の見通しを立てよう」
	3	「研究報告書を作成しよう」
4月11日(木)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
4月16日(火)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「研究計画を見直そう」
	3	「研究報告書を作成しよう」
4月23日(火)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「研究計画を見直そう」
	3	「研究報告書を作成しよう」
5月7日(火)	1	「海外研修の報告を聞こう」 「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「海外研修の報告を聞こう」
	3	「研究報告書を作成しよう」
5月14日(火)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「具体的な研究計画を作成しよう」
	3	「研究報告書を作成しよう」
5月21日(火)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「中間発表会①」

	3	ループリック調査
5月29日(水)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「探究活動」
	3	「研究報告書を作成しよう」
6月18日(火)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「探究活動」
	3	「研究報告書を作成しよう」
7月12日(金)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「探究活動」夏休みの調査活動
	3	「研究報告書を作成しよう」
9月3日(火)	1	「1分間スピーチを通して研究グループをつくろう」
	2	「フィールドワーク等の資料整理をしよう」
	3	「研究報告書を作成しよう」
9月10日(火)	1	ようこそ先輩(卒業生からの助言)
	2	「探究活動」調査報告
	3	「研究報告書を作成しよう」
9月17日(火)	1	「探究学習プログラム」(体育館)
	2	「中間発表会②」
	3	「研究報告書を作成しよう」
9月24日(火)	1	「探究学習プログラム」(体育館) 研究テーマの決定
	2	「探究活動」
	3	「研究報告書を作成しよう」
10月8日(火)	1	「海外研修の報告を聞こう2」 シンガポール研修・オーストラリア研修報告会(体育館) SSH 課題研究発表会参加
	2	「課題研究発表の準備をしよう」
	3	「自己の在り方について考えよう」
10月29日(火)	1	「中間発表会①」
	2	「課題研究発表の準備をしよう」
	3	「自己の在り方について考えよう」
11月5日(火)	1	「探究活動」
	2	「課題研究発表の準備をしよう」
	3	「自己の在り方について考えよう」



11月15日(金)	1	「海外理解推進のための講演会」 (国際協力機構(JICA), DIRECTFORCE等)
11月19日(火)	1	「探究活動」
	2	「課題研究発表の準備をしよう」
	3	「自己の在り方について考えよう」
11月26日(火)	1	「中間発表会②」
	2	「課題研究発表の準備をしよう」
	3	「自己の在り方について考えよう」
12月10日(火)	1	「ポスター発表の準備をしよう」
	2	「課題研究発表の準備をしよう」
	3	「自己の在り方について考えよう」
12月17日(火)	1	「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて」
	2	「中間発表会③」
	3	「自己の在り方について考えよう」
1月10日(金)	1	「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて」
	2	「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて」
1月14日(火)	1	「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて」
	2	「互いのプランを深め合うクラス発表会に向けて」
1月21日(火)	1	発表リハーサル
	2	発表リハーサル
1月28日(火)	1	校内課題研究発表会(3時間)
	2	校内課題研究発表会(3時間)
2月4日(火)	1	学年内発表会
	2	論文作成に向けて
2月26日(火)	1	次年度の課題研究に向けて
	2	論文作成に向けて
3月4日(火)	1	次年度の課題研究に向けて ⇒ 中止
	2	論文作成に向けて ⇒ 中止
3月19日(木)	1・2	課題研究発表会(4時間) ⇒ 中止

(2)「GLアクティブ」

月日	分類	テーマ
7月20日(土)～ 8月3日(土)	海外研修 (2年)	オーストラリア研修
8月1日(木)	国内研修	浅草インタビュー調査と東京ジャーミィ①
8月6日(火)	国内研修	歴博で海外に発信する日本文化を身につけよう！①
8月21日(水)	国内研修	浅草インタビュー調査と東京ジャーミィ②
8月22日(木)	国内研修	「醸造文化、地域活性化を学ぼう」(香取市)
8月23日(金)	国内研修	歴博で海外に発信する日本文化を身につけよう！②
9月18日(水)～ 9月21日(土)	海外研修 (2年)	SGHシンガポール海外研修
9月30日(月)～ 10月2日(水)	国内グローバル研修	英語宿泊研修(ブリティッシュヒルズ)
10月28日(月)	国内研修	「東京外国語大学SGH研修」グローバル大学訪問・模擬授業
10月28日(月)	国内研修	「筑波大学SGH研修」グローバル大学訪問・模擬授業
10月28日(月)	国内研修	「東京大学SGH研修」グローバル大学訪問・模擬授業
11月7日(木) ～ 11月17日(日)	海外研修 (1年)	オランダ派遣
12月15日(日)	国内研修	第4回関東・甲信越静地区高校生探究学習発表会 (立教大学)
12月23日(日)	国内研修 (2年)	全国高校生フォーラム
1月9日(木)	国内研修	「ドイツ派遣に向けて」寒郡茂樹氏(本校同窓生)
2月16日(日)	国内研修	第2回国際研究発表会(千葉大学)
3月13日(金)～ 3月19日(木)	海外研修 (2年)	SGHドイツ海外研修 (新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止のため中止)
3月20日(金)	国内研修	千葉県課題研究発表会 (新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止のため中止)
3月21日(土)～ 3月28日(土)	海外研修 (2年)	SGHイギリス海外研修 (新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止のため中止)
3月21日(土)	国内研修 (2年)	探究甲子園2019(関西学院大学) (新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止のため中止)